

# 東京外国語大学全学日本語プログラムで学ぶ 留学生の学習ツール使用状況

2016～2017年度実施のアンケート調査の結果と分析

鈴木智美・清水由貴子・渋谷博子・中村彰・藤村知子

【キーワード】 全学日本語プログラム、学習ツール、電子辞書、スマートフォン、アプリ、ウェブサイト

## 1. 本稿の目的と研究の背景

本稿の目的は、東京外国語大学「全学日本語プログラム」において日本語を学ぶ学習者が、日本語を学習する際にどのような学習ツールをどのように使用しているのかを、アンケート調査により明らかにすることである<sup>1</sup>。「全学日本語プログラム」とは、東京外国語大学で学ぶ多様な留学生（交換留学生、研究生など）を対象に日本語の運用力向上を目指して開講されている全学的な日本語プログラムで、2018年度秋学期<sup>2</sup>現在、初級から超級までの8段階のレベルで構成されており、世界約60の国・地域からの300名を越す留学生が受講している。

現在、日本語教育は、急速なICT（情報通信技術）環境の発達にともない、新たな時代を迎えていると言える。日本の経済的な発展にともない、世界各地で日本語学習者が増加した一時代を経て、その後日本のアニメや漫画などポップカルチャー人気の広がりとともに、学習者もまた新しい世代が生まれてきた。特に2000年代に入ってから、情報通信のデジタル化・高速化が加速され、学習者の使用する学習ツールや、その学習スタイルにも変化が見られるようになっている。

---

<sup>1</sup> 本稿で報告・考察する学習ツール使用状況についてのアンケート調査は、2016年度および2017年度東京外国語大学留学生日本語教育センター教育研究開発プロジェクト（「留学生の辞書等の学習ツール使用についての実態調査」プロジェクトチーフ：鈴木智美）により実施した。同研究は、その後2017年度より日本学術振興会学術研究助成金（科研費）（平成29年度～31年度基盤研究（C）「日本語学習者の学習ツール使用状況の解明と教師の教育支援リテラシーを結ぶ総合的研究」課題番号：17K02842、研究代表者：鈴木智美）を得て発展的に継続・推進することとなり、アンケート調査実施後の分析・考察については、同科研費の助成を得て行われている。研究グループメンバーは本稿の執筆者の5名である。

<sup>2</sup> 春学期は4月～7月、秋学期は10月～1月に開講される。

上記「全学日本語プログラム」の受講生たちも、その主な世代は現役の大学生世代であり、その多くがいわゆる「デジタルネイティブ」(digital native) 世代の学習者たち<sup>3</sup>であると言える。そのような学習者たちは、ふだん日本語を勉強する時に、どのような学習ツールを使っているのだろうか。新しい世代の学習者たちの学習ツール使用の実態を探り、その情報を共有することは、日本語教育をとりまく種々の環境の変化に対して、日本語教師たち自身が積極的に対応し、その教育リテラシーを向上させていくためにも必要なことではないかと考え、調査を進めることとした。

なお、東京外国語大学では、留学生日本語教育センターにて国費学部留学生<sup>4</sup>の予備教育も行っており、予備教育課程の学習者たちがどのような学習ツールを使用しているのか、同様の調査を行った結果については、別途、鈴木他(2018)にて報告を行っている。

## 2. 調査の概要

調査の概要は以下の表1の通りである。

表1 調査概要：「全学日本語プログラム」で学ぶ学習者はどんなツールを使っているか

調査時期	調査協力者	調査方法
2016年12月および 2017年7月	東京外国語大学留学生 139名 (交換留学生、研究生など)	無記名式 オンラインアンケート

調査対象とした学習ツールは、電子辞書、スマートフォン等のアプリケーション(以下、「アプリ」)、各種ウェブサイトである。また、動画視聴やSNS利用なども広い意味で学習リソースを用いた活動と考え、調査の対象とした。ふだんどのような学習ツールをどのぐらい使用しているか、アプリやウェブサイトについてはよく使う具体的なツール名を挙げてもらい、その使用頻度、使用目的、それらのツールの利便性等についての質問を設定した。アンケートの全体構造は、予備教育課程の学習者を対象とした調査と同様である。鈴木他(2018:199)で示した概

<sup>3</sup> 初等・中等教育の段階からコンピュータおよびインターネット等に日常的に触れてきた世代の学習者たちのこと。

<sup>4</sup> 日本政府(文部科学省)奨学金留学生のうち、学部留学生のこと。来日後、最初の1年間は文部科学省の指定する予備教育機関(東京外国語大学あるいは大阪大学)で大学入学のための集中的な予備教育を受ける。

略図を、以下図1に再掲しておく。

アンケート調査における主な質問項目については、以下の表2に日本語の部分をもとめて示す。実際は各質問項目には英訳を並記している。質問項目数は、A(電子辞書)については8項目、B(アプリ)8項目、C(ウェブサイト)7項目、D(その他の活動)2項目、計25項目である<sup>5</sup>。該当する回答がない場合(そのツールを使わない場合など)は、指示にしたがって、適宜次の質問に進む形式となっている。多くは多肢選択式の質問だが、一部補足的に記述を求める質問が含まれる。

学習ツール使用についてのアンケート:全体構造	
【説明文】	
I. 学習ツールについての質問	
A.電子辞書について 持っているか・使うかどうか(→使わない人は質問Bへ)	【電子辞書について】質問
B.スマートフォンやコンピュータのアプリケーションについて(最大3つまで回答) 使うかどうか(→使わない人は質問Cへ)	【アプリについて】質問その1 まだほかにある人はその2へ、ほかにはない人はCへ
	【アプリについて】質問その2(1と同じ) まだほかにある人はその3へ、ほかにはない人はCへ
	【アプリについて】質問その3(1と同じ)
C.ウェブサイトについて(最大3つまで回答) 使うかどうか(→使わない人は質問Dへ)	【ウェブサイトについて】質問その1 まだほかにある人はその2へ、ほかにはない人はDへ
	【ウェブサイトについて】質問その2(1と同じ) まだほかにある人はその3へ、ほかにはない人はDへ
	【ウェブサイトについて】質問その3(1と同じ)
D.その他の活動について	
II. 回答者自身についての質問 日本語レベル、母語、日本語学習の動機など	
【インタビュー調査協力の可否・問い合わせ先など】	

図1 オンラインアンケートの全体構造

<sup>5</sup> B(アプリ)およびC(ウェブサイト)における、複数のツールに関しての同一質問を重複して数えない数である。また選択式の質問において「その他」等の回答を選んだ場合には、その詳細を問う下位質問が付随するが、これも数えない数である。

表2 学習ツールアンケート：主な質問項目一覧（日本語部分のみ）

A. 電子辞書について	
1	自分の電子辞書を持っていますか。
2	どこの(何社製の)電子辞書ですか。
3	どうやってその電子辞書を選びましたか。
4	日本語を勉強する時、電子辞書を使いますか。
5	電子辞書の中の辞書では、どの辞書をよく使いますか。(英和・和英辞典など)
6	電子辞書を使って、どんなことをしますか。
7	あなたが使っている電子辞書について、良い点を教えてください。
8	あなたが使っている電子辞書について、不便な点があったら教えてください。
B. スマートフォンやコンピュータのアプリケーション(あるいはプログラム)について	
	日本語を勉強する時、スマートフォンやコンピュータのアプリケーションを使いますか。【使う場合、以下の質問に回答。アプリの名前は1～3つまで順に挙げるができる】
1	あなたがよく使うアプリケーションの名前を書いてください。
2	そのアプリケーションをダウンロードできるサイトがあったら、そのURL (http (s) で始まるアドレス)を、以下にコピー&ペーストしてください。
3	そのアプリケーションを、どの機器でよく使っていますか。(スマートフォン、タブレットなど)
4	そのアプリケーションを、どのぐらいよく使っていますか。
5	そのアプリケーションを使って、どんなことをしますか。
6	そのアプリケーションについて、良い点を教えてください。
7	そのアプリケーションについて、不便な点を教えてください。
C. ウェブサイトについて	
	日本語を勉強する時、ウェブサイトを使いますか。【使う場合、以下の質問に回答。ウェブサイトの名前は1～3つまで順に挙げるができる】
1	あなたがよく使うウェブサイトの名前を書いてください。
2	そのウェブサイトのURL (http (s) で始まるアドレス)を、以下にコピー&ペーストしてください。
3	そのウェブサイトを、どのぐらいよく使っていますか。

4	そのウェブサイトを使って、どんなことをしますか。
5	そのウェブサイトについて、良い点を教えてください。
6	そのウェブサイトについて、不便な点を教えてください。
D. その他の活動について	
1	日本語を使って、ふだん、どのようなことをしていますか。(新聞や雑誌を読む、まんがを読んだりアニメを見たりする、日本人の友だちや知り合いと日本語で話すなど)
2	学校の勉強以外で、ほかに日本語を使ってしている活動があったら、教えてください。

回答者 (139名) の日本語レベルの内訳は、以下の表3の通りである。初級から超級まで、ほぼ平均的に回答を得ることができた。

表3 アンケート回答者：日本語レベル別

日本語レベル	回答者人数
100 (初級)	24
200 (初級後半～初中級)	24
300 (中級前半)	10
400 (中級後半)	20
500 (中上級)	14
600 (上級前半)	12
700 (上級後半)	14
800 (超級)	16
回答なし	5
計	139

日本語能力試験のいずれかのレベルに合格しているという回答があったのは、139名のうちほぼ半数の68名で、N1合格が24名、N2合格が18名、N3が7名、N4が12名、N5が3名であった。4名はレベルについての回答は特になかった。

回答者の年代は、10代が17名、20代が105名、30代が12名、40代が1名、回答なしが4名で、20代の回答が最も多い。

回答者の国籍は、以下の表4に示す通りである。計51の国・地域の留学生からの回答が得られた。

表4 アンケート回答者：国籍別

国籍	回答者人数	国籍	回答者人数
中国	21	アイルランド	1
ブラジル	8	アルゼンチン	1
英国	6	イラク	1
タイ	6	オーストリア	1
モンゴル	6	オランダ	1
イタリア	5	カザフスタン	1
インドネシア	5	シンガポール	1
オーストラリア	4	スペイン	1
ミャンマー	4	台湾	1
ロシア	4	チェコ	1
ウズベキスタン	3	チュニジア	1
エジプト	3	ドイツ	1
韓国	3	トルクメニスタン	1
カンボジア	3	ニュージーランド	1
キューバ	3	バルバドス	1
スリランカ	3	バングラデシュ	1
ブルネイ	3	フィリピン	1
ポルトガル	3	ポーランド	1
メキシコ	3	ボスニア	1
アメリカ	2	南アフリカ	1
インド	2	ラオス	1
トルコ	2	ラトビア	1
フランス	2	ルーマニア	1
ブルガリア	2	レバノン	1
ベトナム	2	回答なし	3
マケドニア	2	計	139
マレーシア	2		

また、アンケートでは、スマートフォンなどの表示言語を何語に設定しているかという点についても質問を行っている。英語という回答が最も多く54名、日本語が19名、その他の言語(多くの場合が学習者の母語)が33名、日本語と英語の併用が16名、日本語とその他の言語(多くの場合が学習者の母語)の併用が6名、英語とその他の言語(学習者の母語)の併用が2名、日本語・英語・その他の言語(学習者の母語)の併用が5名、回答なしが4名であった<sup>6</sup>。機器を購入した場所にも関係するとは思われるが、表示言語を国際語としての英語にしているという回答者が最も多く、次に母語、日本に留学してはいるものの表示言語を日本語にしているという回答は1割ほどであった。

### 3. 調査結果と考察

以下、調査の結果について、電子辞書、アプリ、ウェブサイト、その他の活動の順に述べる。

#### 3. 1 電子辞書

今回の調査では、電子辞書を「持っている」という回答が45名、「持っていない」という回答が85名、回答なしが9名で、電子辞書を所有しているのは、回答者の約3割であった。鈴木他(2018)では、東京外国語大学留学生日本語教育センターにおける予備教育課程に在籍する留学生に同様の調査を行った結果を報告しているが、そこでは電子辞書を所有しているという回答は83名中9名のみであったという結果が述べられており、それに比べると所有率は比較的高い。

所有しているという回答者45名のうち、日本語を勉強する際に電子辞書を使うかどうかという問いには、「非常によく使う」という回答が18、「よく使う」が14、「時々使う」が12で、所有者のほぼ全員が所有している電子辞書を実際に使っており、「あまり使わない」という回答は1名のみであった。ただし、2011年に東京外国語大学の留学生を対象に辞書についてのアンケート調査を行った結果(鈴

---

<sup>6</sup> 「その他の言語」のうち、母語以外の言語を表示言語としている例として、英語を母語とする学習者(英国国籍)がスマートフォンの表示言語をフランス語にしているという回答、マレー語を母語とする学習者(英語も母語と同じぐらい使用できるとの回答)が表示言語を韓国語にしているという回答が1名ずつ見られた。併用の場合も、ブルガリア語を母語とする学習者(英語とドイツ語も母語と同じぐらい使用できると回答)がドイツ語と日本語、英語とタガログ語を母語とする学習者(英国国籍)がフランス語と日本語の併用という回答が見られた。

木 2012) と比べると、当時、電子辞書を「非常によく使う」および「よく使う」という回答が全体の7割であったということから、電子辞書の使用は全体的に見て減少していることがわかる。

所有者の国籍は中国が19名と最も多く、ほかは、モンゴル、インドネシア、ミャンマー、タイ、ウズベキスタン、キューバ、エジプト、イタリア、ドイツ、ロシア、韓国など様々である。日本語のレベルでは、600レベル(上級前半)10名、700レベル(上級後半)10名、800レベル(超級)9名と、上級以上の学習者が大半を占めている。そのほか500レベル(中上級)が4名、初級～中級レベルが6名、回答なしが3名である。

なお、電子辞書の所有者45名のうち、一方でスマートフォンなどのアプリケーションをよく使うかという質問に対しては「非常によく使う」という回答が14、「よく使う」という回答が11、「時々使う」が7、「あまり使わない」10、「まったく使わない」3となっている。電子辞書の利用者の中で、アプリもよく使うというアプリ併用派は、約半数を占めていることがわかる。同様に、ウェブサイトについても「非常によく使う」12、「よく使う」9、「時々使う」7、「あまり使わない」8、「まったく使わない」5、回答なしは4であり、ウェブサイトとの併用派はアプリより若干少ない。

電子辞書の中に搭載されている各種辞書の中でどれを使っているかという問い(複数選択可)では、英語以外の言語と日本語との対訳辞書を使用しているとの回答が29と最も多く、具体的には学習者の母語(中国語、韓国語、ロシア語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語等)と日本語である。次に国語辞典(日本語で記述されているもの)が27回答と多く、次に英和辞典(19回答)、和英辞典(17回答)と続く。

電子辞書を使ってどんなことをしているかという問い(複数選択可)では、「日本語の言葉の意味を調べる」が41回答と最も多く、「日本語の言葉の使い方を調べる」(38回答)、「漢字の書き方や読み方を調べる」(34回答)、「自分の母語や英語の言葉に対する日本語の訳を調べる」(32回答)が続く。

電子辞書の良い点としては、「いろいろな種類の辞書が入っていて、情報が豊富だ」(36回答)、「操作がしやすい」(32回答)、「便利な機能がある」(30回答)、「母語(あるいは英語など)の言葉の日本語の訳がすぐわかる」(29回答)、「説明がわかりやすい」(28回答)などが挙げられている。「便利な機能」として挙げられているのは、ほとんどが「手書き入力」で、「ジャンプ機能」も3回答見られた。一方、



不便な点としては、「書き言葉なのか、話し言葉なのかがわからない」(19回答)、「例文が少ない」(18回答)のほか、「自分の母語から日本語を調べられない」(12回答)が挙がっており、タイ語、インドネシア語、モンゴル語、アラビア語、ヒンディー語、ルーマニア語、ブルガリア語などの母語話者が、電子辞書の中で、母語ではなく英語との対訳辞書(英和・和英辞典)を使っている。

以上、今回の調査では、全体的に電子辞書の使用数は減っているものの、上級以上の学習者のうち一定数の人が電子辞書を日常的に使用しているということがわかった。特に中国の留学生は21名の回答者のうち19名が電子辞書を所有しているということで、所有率が高い。

### 3. 2 アプリ

次に、アプリの使用状況、使用目的、学習者のアプリに対する評価について述べる。

まず、「日本語を勉強する時、スマートフォンやコンピュータのアプリケーションを使いますか」という質問には、「非常によく使う」との回答が78と最多で、「よく使う」との回答が24、「時々使う」12、「あまり使わない」15、「まったく使わない」という回答は8名のみであった。「時々使う」を含めれば、8割以上の回答者がアプリを使っているということがわかる。「まったく使わない」と回答した8名を見てみると、このうち3名(上級後半および超級レベル)は電子辞書を所有しており、この3名は電子辞書使用派とも言えるだろう。また、「まったく使わない」と回答した8名のウェブサイトの使用についてはばらつきがあり、「非常によく使う」1、「よく使う」3、「時々使う」1、「あまり使わない」1、「まったく使わない」2となっている。電子辞書を所有しておらず、アプリもウェブもまったく使用しないという回答の2名は、いずれも初級レベル(初級および初級後半～初中級レベル)の学習者であり、その学習段階から考えると、授業で使用する教材以外には、自らツールを使用する必要性がまだ生じていないためとも考えられる。

次に、よく使うアプリの具体名について問うたところ、111名の回答者が何らかのアプリ名を挙げて回答した。2つのアプリを挙げた回答者がそのうち49名、3つのアプリを挙げた回答者はそのうちさらに22名で、延べ180以上のアプリ名が挙がった。これらのアプリの多くは、スマートフォン(iPhone端末とAndroid端末がほぼ同数)にダウンロードして使用されている。挙げられたアプリ名は、実際に特定できたものは約70種あり、このうち4名以上が回答したアプリ名に

ついて、回答者数の多い順に以下の表5に示す。

表5 よく使うアプリ具体名(上位12位まで)

順位	アプリ名	回答数
1	imiwa?	20
2	Google Translate	14
3	Japanese	12
4	Akebi Japanese Dictionary	9
5	Jsho-Japanese Dictionary	7
6	Kanji Study	6
6	Anki	6
6	沔江小D 词典—英日韩多语种查词助手	6
6	Memrise - 語学学習アプリ	6
10	Quizlet クイズレット	5
10	JED - Japanese Dictionary	5
12	Shirabe Jisho	4
12	Obenkyo	4
12	Takoboto: Japanese Dictionary	4

また、アプリの具体的な使用内容を知るため、アプリを使って何をするか、22の項目から多肢選択式による回答を求めた。選択肢一覧と、挙げられた全アプリについての総回答数は、以下の表6の通りである。

表6 アプリの使用目的および回答数一覧

番号	選択肢	回答数
1	自分の母語や英語の言葉に対する日本語の訳を調べる	110
2	日本語の言葉の意味を調べる	117
3	日本語の言葉の使い方を調べる	75
4	ある日本語の言葉と似ている意味の日本語の言葉(類義語)をさがす	40
5	漢字の書き方や、漢字の筆順(線を書く順番)を調べる	71
6	漢字の読み方を調べる	96
7	漢字や、漢字の部首(漢字の部分)の意味を調べる	69
8	1つの漢字から、その漢字を使った言葉にどんなものがあるかを調べる	47
9	自分で漢字を組み合わせて、その言葉が日本語にあるかどうかを調べる	45
10	漢字を登録し、自分の漢字リストを作る	38
11	漢字をおぼえる練習をする	59
12	日本語の言葉の発音やアクセントを聞く	28
13	日本語の言葉の発音を練習する	19
14	言葉を登録し、自分の語彙リストを作る	43
15	言葉をおぼえる練習をする	43
16	文法ドリルで練習する	19
17	読解の練習をする	20
18	聴解の練習をする	17
19	会話や短い表現の例を調べる	18
20	会話や短い表現の練習をする	13
21	日本語能力試験の練習をする	28
22	その他	8

回答数として多かった上位5つは、「日本語の言葉の意味を調べる」(117回答)、「自分の母語や英語の言葉に対する日本語の訳を調べる」(110回答)、「漢字の読み

方を調べる」(96 回答)、「日本語の言葉の使い方を調べる」(75 回答)、「漢字の書き方や、漢字の筆順を調べる」(71 回答)であった。反対に、使用目的として回答が少なかったものは、「会話や短い表現の練習をする」(13 回答)、「聴解の練習をする」(17 回答)、「会話や短い表現の例を調べる」(18 回答)、「日本語の発音を練習する」(19 回答)、「文法ドリルで練習をする」(19 回答)であった。これらの結果を見ると、アプリはスマートフォンにダウンロードして使用することが多いため、場所を問わず手軽に使う目的で、辞書機能を中心としてよく使われていることがわかる。反対に、音声出力を伴うものや時間をかけて学習するという目的にはあまり使われていないことがわかる。

さらに、よく使うアプリを学習者がどう評価しているか、アプリの良い点と不便な点について多肢選択式による回答を求めた。

よく使うアプリの良い点について、全 11 の選択肢から回答を求めたところ、回答数が多かった上位 5 つは、「操作がしやすい」(143 回答)、「説明がわかりやすい」(106 回答)、「母語(あるいは英語など)の言葉の日本語の訳がすぐわかる」(75 回答)、「入っている情報が多い」(71 回答)であった。不便な点については、全 8 の選択肢から回答を求めたところ、上位 3 つは、「例文が少ない」(48 回答)、「不便な点はない」(42 回答)、「自分の母語の訳がない」(39 回答)であった。

この回答結果を見ると、アプリではその操作性が重視されていることがわかる。アプリは通常スマートフォンにダウンロードして使用されるため、その小さな画面上でもストレスなく操作できることが必要であろう。操作性に優れていることが頻度の高い使用につながり、求める情報がすぐに得られるというスピード性や、説明のわかりやすさという評価にもつながっていくのではないかと思われる。「不便な点はない」も回答としては多く、よく使うアプリに対して大きな不満はないようであるが、例文が少ないと感じられるものなどもあるようである。また、「その他」の自由記述回答を見ると、「漢字の正しい書き順がわからないと手書き入力ができない」など漢字の検索方法についてのコメントや、「例文の漢字にふりがながない」「クラスで習った漢字が載っていない」というように、漢字学習を目的とした場合に感じる不便さが挙げられていた。アプリ使用においては辞書機能の使用頻度の高さがわかるが、一部の学習者は漢字検索において困難さを感じているようすが見てとれる。

### 3.3 ウェブサイト

以下では、ウェブサイトの使用状況、使用目的、学習者のウェブサイトに対する評価について述べる。

「日本語を勉強する時、ウェブサイトを使いますか」との質問に対し、「非常によく使う」との回答が38と最も多く、「よく使う」(24回答)と「時々使う」(25回答)と合わせると、ウェブサイト使用派は約7割であった。一方、「あまり使わない」(23回答)、「まったく使わない」(16回答)という回答から、ウェブサイトを使わないという人たちも約3割いることがわかる。

「まったく使わない」と回答した16名のうち、13名はアプリについては「非常によく使う」あるいは「よく使う」と回答している<sup>7</sup>。さらに「時々使う」と回答した25名のうち19名は、アプリを「非常によく使う」か「よく使う」と回答している。これに対し、ウェブサイトを「非常によく使う」および「よく使う」と回答した62名のうち、46名はアプリについても「非常によく使う」あるいは「よく使う」と回答している。このことから、ウェブサイトに関しては、「ウェブサイトはまったく／あまり使わないが、アプリはよく使う」というタイプがいる一方で、「ウェブサイトもアプリも、どちらもよく使う」というタイプもいることがわかる。鈴木他(2018)の調査の結果と少し異なり、必ずしも、アプリとウェブサイトが相補的ではないこと、ツールを使う人の中には「アプリもウェブサイトも両方使う」というタイプの人があることがわかった。

具体的サイト名については93名が回答しており、そのうち2つのサイトを挙げた回答者が36名、そのうちさらに3つまで挙げた回答者は10名見られた。挙げられたサイトは延べ139、45種であった。回答数の多かったサイトとしては、「jisho」(30回答)、「Google Translate」(29回答)の2つが特に多く、次いで「Weblio 辞書：辞典・百科事典の検索サービス」(10回答)、「Google」(6回答)、「ヤフー」(5回答)、「The Ultra Japanese Verb Conjugator」(5回答)が挙げられた。いわゆる辞書機能を備えたサイトや翻訳サイトが上位3位を占め、次いでより汎用的な情報検索サイトが続く。なお、動詞の活用形を確認できる「The Ultra Japanese

<sup>7</sup> ウェブサイトを「まったく使わない」と回答したうちの残り3名は、アプリを「まったく使わない」(2)あるいは「時々使う」(1)と回答している。このうち「まったく使わない」とする2名は、3.2節で「電子辞書を所有しておらず、アプリもウェブサイトも使用しない」という回答であったことを指摘した初級レベル(初級および初級後半～初中級レベル)の学習者である。アプリについては「時々使う」とした回答者1名も、同じく初級レベルの学習者で、電子辞書は所有していない。

Verb Conjugator」を挙げた5名は、多くが初級レベルの学習者である<sup>8</sup>。

「そのウェブサイトを使ってどんなことをするか」については、「その他」を含め全25の選択肢からあてはまる項目をすべて選ぶ多肢選択式である。選択肢一覧と、挙げられた全サイトについての総回答数は、以下の表7の通りである。

表7 ウェブサイトの使用目的および回答数一覧

番号	選択肢	回答数
1	自分の母語や英語の言葉に対する日本語の訳を調べる	86
2	自分の母語や英語で文・文章を書いて、日本語に翻訳する	44
3	日本語の言葉の意味を調べる	94
4	日本語の言葉の使い方を調べる	73
5	ある日本語の言葉と似ている意味の日本語の言葉(類義語)をさがす	48
6	使いたい日本語の表現がどれくらい多く使われているかを調べる	36
7	日本語のコロケーション(どんな言葉とどんな言葉を、よくいっしょに使うか)を調べる	47
8	日本語の言葉を入力して、その言葉が使われているいろいろな文章をさがして、読む	34
9	漢字の書き方や読み方を調べる	53
10	漢字や、漢字の部首(漢字の部分)の意味を調べる	35
11	漢字を登録し、自分の漢字リストを作る	5
12	漢字をおぼえる練習をする	5
13	日本語の言葉の発音やアクセントを聞く	17
14	日本語の言葉の発音を練習する	13
15	言葉を登録し、自分の語彙リストを作る	3
16	言葉をおぼえる練習をする	8
17	日本語の文法について調べる、文法の説明をさがす	25

<sup>8</sup> 100レベル(初級)1名、200レベル(初級後半～初中級)3名、300レベル(中級前半)1名であった。

18	文法ドリルで練習する	7
19	読解の練習をする	12
20	聴解の練習をする	12
21	会話や短い表現の例を調べる	24
22	会話や短い表現の練習をする	13
23	日本語能力試験の練習をする	13
24	日本の社会や文化、歴史などについて調べる	27
25	その他	13

「日本語の言葉の意味を調べる」(94回答)が最も多く、「自分の母語や英語の言葉に対する日本語の訳を調べる」(86回答)、「日本語の言葉の使い方を調べる」(73回答)が続き、ウェブサイトもアプリと同様、辞書としての用途が主であることがわかる。その他、「漢字の書き方や読み方を調べる」(53回答)、「ある日本語の言葉と似ている意味の日本語の言葉(類義語)をさがす」(48回答)、「日本語のコロケーション(どんな言葉とどんな言葉を、よくいっしょに使うか)を調べる」(47回答)、「自分の母語や英語で文・文章を書いて、日本語に翻訳する」(44回答)のように、漢字の書き方・読み方を調べたり、類義語やコロケーションについて情報を探したり、文・文章を日本語に翻訳するなど、それぞれ特定の用途に各ウェブサイトを使用している様子が見えてくる。一方で、「単語・漢字を覚える」「単語・漢字を登録して自分のリストを作る」という用途ではほとんど使われていないことから、ウェブサイトは単語帳としての用途ではあまり使用されないということがわかる。

使用しているサイトの評価については、まずサイトの良い点として、「その他」を含めた全15の選択肢のうち、「操作がしやすい」(100回答)、「説明がわかりやすい」(79回答)、「入っている情報が多い」(74回答)の3つが特に多くの回答を得た。一方、そのサイトの不便な点については、「不便な点はない」(44回答)が最も多く、次いで「言葉の訳が正しくないことがある」(35回答)、「文・文章の翻訳が正しくないことがある」(33回答)という結果であった。不便な点が感じられないからこそ、そのサイトがよく使われているのだということがわかる。また、先述したように、ウェブサイトの使用目的で最も多いのが主に辞書としての機能であるため、翻訳が不正確であることについては不満があるという評価が見られた。

### 3. 4 その他の活動

そのほかに、日本語を使ってふだんどのような活動をしているか、多肢選択式の設問（複数回答可）で確認した。選択肢は全12である。最も回答の多かったものは、「日本語のテレビ番組や映画、いろいろな動画を見る」（102回答）である。次いで「日本人の友だちや知り合いと日本語で話す」（99回答）、「日本語の歌を聞いたり、歌ったりする」（97回答）、「日本語のまんがを読んだり、アニメを見たりする」（80回答）、「外国人の友だちや知り合いと日本語で話す」（79回答）、「SNSを使って、記事を読んだり、コメントしたり、メッセージを送ったり、日本語で会話をしたりする」（72回答）と続く。多少の順位の違いはあるものの、鈴木他（2018）で報告されている予備教育課程の留学生の回答とほぼ同様の結果となっている。

### 4. まとめと今後の課題

以上、本稿では、東京外国語大学「全学日本語プログラム」で日本語を学ぶ学習者を対象に、学習ツールについての実態調査を行った結果について報告を行った。現在、日本語学習に関連して、膨大な数のアプリやウェブサイトなどが開発・公開されており、日本語学習者がごく日常的にそれらのツールを頻繁に使用しているようすが浮かび上がってきた。教育に携わる教師も、このような現状をふまえた上で、教育のあり方を積極的に見つけ直していくことも求められるのではないだろうか。本稿の執筆者の研究グループでは、現状について情報を把握し、教師間あるいは学習者間、あるいは学習者と教師の間で情報を共有し、問題点や展望など、互いの考えを伝え合い、ともに考えるという機会を設定することを考え、ワークショップ等の活動を行うことにしている<sup>9</sup>。今後は、アプリやサイトの開発者と日本語教師など、異なる業種間の情報交換の機会なども設定していきたいと考えている。

（本研究における調査を実施するにあたり、オンラインアンケートの作成および集計では、森田寿香氏に、またアンケート結果のデータ処理・集計では、東京外

---

<sup>9</sup> 2018年3月に日本語教師などを対象としたワークショップ「ICT時代の日本語学習者はどのような学習ツールを使っているか」（於東京外国語大学）（報告については鈴木他2019予定）を、また2018年6月に学習者を対象としたワークショップ「日本語学習者のための人気の辞書サイト『jisho』の作成者に聞こう!」を、さらに平成30年度日本語学校教育研究大会（2018年8月）では「デジタル時代の教師の学習支援のあり方」というテーマで分科会を行っている。



国語大学大学院博士後期課程の泉大輔氏に大きな協力をいただいた。なお、本研究は、日本学術振興会学術研究助成金平成 29 年度～ 31 年度基盤研究 (C)「日本語学習者の学習ツール使用状況の解明と教師の教育支援リテラシーを結ぶ総合的研究」(課題番号: 17K02842, 研究代表者: 鈴木智美)の助成を受けて行われている。

## 参考文献

- 鈴木智美 (2012)「留学生の辞書使用についての実態調査—東京外国語大学で学ぶ留学生へのアンケート調査の結果と分析」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』38号 pp.1-16
- 鈴木智美 (2017)「辞書ツールは文法的正確さの産出につながるか—ICT時代の日本語学習者の効果的な辞書使用を考えるために—」『日本語教育と日本研究におけるイノベーション及び社会的インパクト』(第11回国際日本語教育・日本研究シンポジウム大会論文集)香港日本語教育研究会 pp.129-147
- 鈴木智美・清水由貴子・渋谷博子・中村彰・藤村知子 (2018)「予備教育課程の国費学部留学生の学習ツール使用状況—2016～2017年度実施のアンケート調査の結果から見えるスマートフォンアプリの使用目的の多様化と学習スタイルの変化—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』第44号 pp.195-217
- 鈴木智美・中村彰・清水由貴子・渋谷博子 (2019 予定)「ICT時代の日本語学習者はどのような学習ツールを使っているか—日本語教師を対象としたワークショップ実施報告—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』第45号

# How Learners in the Japanese Language Program of Tokyo University of Foreign Studies Use Learning Tools: Results and Analysis of the Surveys Conducted in 2016 and 2017

SUZUKI Tomomi, SHIMIZU Yukiko, SHIBUYA Hiroko,  
NAKAMURA Akira, FUJIMURA Tomoko

**Key Words:** JLPTUFS, Learning Tools, Electronic Dictionaries, Smartphones, Apps, Websites

The purpose of this paper is to reveal through surveys what kind of learning tools international students in the JLPTUFS use when they study Japanese. The JLPTUFS is a Japanese language program offered to diverse international students at Tokyo University of Foreign Studies.

The surveys were conducted online in December 2016 and June 2017, and 139 students replied to them. We examined usage of electronic dictionaries, smartphone apps, websites, as well as other activities involving the Japanese language, such as watching videos online, using SNS, etc.

We asked the names of apps and websites that they frequently use. Out of a total of over 180 replies, about 70 apps were mentioned, and out of a total of over 130 replies, 45 websites were mentioned. About 30% of the surveyed still list electronic dictionaries, but a vast number of apps and websites for Japanese language learning were being developed and made available, and we have found that Japanese language learners use these tools frequently on a regular basis.